

CR (絶滅危惧 I A 類)

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

カテゴリー判定基準：A-2

シャープゲンゴロウモドキ

Dytiscus sharpi Wehncke, 1875

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
E	CR+EN	CR+EN

日本固有種

日本固有種で本州に分布。北方系の遺存種として重要。河川の氾濫原や潟、沼では開発などにより戦前までの確認であり、一時は幻の虫とされていた。再発見後も、生息地の環境変化や侵略的外来種の侵入、採集圧により激減したため、国内希少野生動物種に指定された。侵略的外来種排除、生息地再生などの保全策が進んでいる。

Dytiscus sharpi distributing in Honshu is an endemic species and precious as a survivor of a northern species. It was once considered to be extinct, because its known habitat such as floodplains and marsh disappeared due to increasing urban development before the World War II. Since its rediscover, habitat change, invasive species and excessive collecting caused a dramatic decrease in the species, so now it has been legislated as a national rare species. Eradication of invasive species and habitat regeneration are being promoted for its conservation.

基礎情報

■**形態** 体長28~33mm。体型は長卵形。背面は緑褐色、前胸背から上翅側縁は黄褐色。

■**分布域** 本州日本海側および関東から関西の十数都府県。

■**生息環境** 平地から低山地の湧水のある泥深く、水草の豊富な河川の氾濫原、後背湿地、池沼、ため池、湿田、休耕田、水田脇の水たまり。

■**生活史** 成虫は10月頃より交尾し、4月頃にセリやカササゲの茎に数十個の卵を産む。幼虫は4~5月に現れ、ミズムシや両生類幼生を捕食する。新成虫は6~7月に現れ、夏~秋に移動分散し、水中で越冬する。3~4kmは飛翔する。成虫も肉食性で寿命は1~3年。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 戦前は東京都や大阪府の河川の氾濫原や潟沼にも生息していた。1960年の記録を最後に絶滅が懸念されたが、1980年頃より関東から日本海側で再発見された。

■**生息地の現況** 各地で絶滅し、生息地は数県の谷津田最上部などの十数ヶ所。

存続を脅かす要因

池沼の開発 (12)、水質汚染 (31)、空中散布、

近年の箱剤を含む農薬使用 (32)、ゴルフ場開発 (21)、圃場整備による乾田化と水たまりの消失 (15-2)、放棄水田の植生遷移の進行 (53)、アメリカザリガニの侵入 (56-1)、標本・飼育目的の業者・愛好者による採集圧 (41)。

保護対策の現状

国と石川県の希少野生動物種。谷津田谷頭部の放棄水田の湛水化や水田脇の小湿地創出。アメリカザリガニの低密度管理・根絶。系統保存による増加個体の放逐で個体群増強などが実施されている。千葉県では回復計画が策定・実施され、回復傾向にある。他県でも保全が開始され、金沢市では地元との環境協定が結ばれた。

特記事項

北方系要素の南限分布として重要。

参考文献

- Inoda, T., 2011. Preference of oviposition plant and hatchability of the diving beetle, *Dytiscus sharpi* (Coleoptera: Dytiscidae) in the laboratory. *Entomological science*, 14: 13-19.
- 西原昇吾, 2009. シャープゲンゴロウモドキの生息現状と保全. *昆虫と自然*, 44(1): 25-29.
- 西原昇吾, 2011. 野外操作実験による節足動物群集解析と保全への適用. *日本生態学会誌*, 62(2): 179-186.
- 西原昇吾・苅部治紀・鷲谷いづみ, 2006. 水田に生息するゲンゴロウ類の現状と保全. *保全生態学研究*, 11(2): 143-157.
- 富沢章, 2001. シャープゲンゴロウモドキの累代飼育. *どうぶつと動物園*, 53(617): 4-7.

執筆: 西原昇吾・苅部治紀・丸山宗利